

ぶろっさむ -らいと-

no.9

1, 教祖のひながたを学ぼう

女子青年アンケート結果

2, step by step

3, ちょこつとぎやらりい。

あさひじょしせいねん

●教祖のひながたを学ぼう●

女子青年逸話篇アンケート

皆さん、回答ありがとうございました★
今月からアンケートの結果をご紹介します(^▽^)/

好きな逸話編 1位



「135. 皆丸い心で」

明治十六、七年頃の話。久保小三郎が、子供の檜治郎の眼病を救けて頂いて、お礼詣りに、妻子を連れておぢばへ帰らせて頂いた時のことである。

教祖は、赤衣を召してお居間に端座して居られた。取次に導かれて御前へ出た小三郎夫婦は、恐れ多さに、頭も上げられない程恐縮していた。

しかし、檜治郎は、当時七、八才の子供のこととて、気がねもなくあたりを見廻わしていると、教祖の側らに置いてあった葡萄が目についた。それで、その葡萄をジッと見詰めていると、教祖は、静かにその一房をお手になされて、

「よう帰って来なはったなあ。これを上げましょう。世界は、この葡萄のようになあ、皆、丸い心で、つながり合うて行くのやで。この道は、先永う楽しんで通る道や程に。」

と、仰せになって、それを檜治郎に下された。

皆さんの声

😊 「ぶどうのように皆丸いところで繋がりがあっていくという言葉が小さいころに聞いたのを覚えていて印象に残っています。」



次回は2位の逸話篇を紹介します！

Step by step

asahijoshiseinen

本部神殿

神殿と礼拝場

親神様がお鎮まり下さる「ぢば」を中心に、神殿は建てられています。

「かんろだい」が据えられている中央の棟が神殿で、それを取り囲んで東西南北に礼拝場があります。四方から拝めるようになっていて、例えば、南礼拝場で「かんろだい」に向かって座ると、北礼拝場で参拝している人と向き合う形になり、その様子は、互いに拝み合っているように見えます。

神殿では、毎日の朝夕のおつとめ、毎月26日には月次祭が勤められます。

礼拝場は一年365日、24時間開放されていて、いつでも参らせて頂くことができます。

かんろだい

神殿の真ん中には「かんろだい」と呼ばれる台があります。「かんろだい」が据えられている場所を「ぢば」といい、ここで、親神様が人間を創られました。

「かんろだい」は六角形の部分が大小13段積み重ねられた高さ8尺2寸（約2m 48cm）の台です。この形や大きさなどは、すべて教祖が詳しく教えて下さったものです。

4つの礼拝場

北礼拝場は大正2年（1913年）に建てられ、271畳あります。

南礼拝場は昭和9年（1934年）、神殿とともに建てられ、546畳あります。

東西礼拝場は、どちらも1170畳あり、西礼拝場は昭和56年（1981年）、東礼拝場は昭和59年（1984年）に建てられました。

4つの礼拝場の畳数は、合計3157畳となります。

ちょこっとぎやらりい。



カメラマン:sekisanphoto

みなさん、こんにちは。ちょこっとぎやらりい。のお時間です🌸

新しい年が始まり、お仕事に勉強など、どうお過ごしですか？

寒い寒い毎日ですが、御本部では春季大祭が行われました。

2022年、みなさんは御本部へは参拝に行かれましたでしょうか？？

新型コロナウイルスがまた感染拡大によって、参拝をお控えになっている方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

毎日参拝にいかれている方、滅多にいけない方、色々な方々に少しでもおぢばを味わっていただけたら嬉しいです😊